

「溜めない」技術

研究開発部
宮木 由貴子

年度の替わる3月、4月は、子どもの学年や学校が替わったり人事異動が行われる季節であり、不用品が多く出る季節でもある。年末に大掃除をした身にとって、この時期にまた大掃除をするのは面倒かもしれないが、気温も暖かくなってくるので、環境的にも掃除がしやすい。花粉症やほこりなどのアレルギーが出てくるこの時期に家をこざっぱりさせることで、快適な生活が期待できる。

< 掃除の種類 >

「掃除」にはいくつかのやり方がある。「掃除」自体は「ごみやほこりを、掃いたり払ったりなどして取り除き、きれいにすること」とされる。「片づけ」は「散らかっている物を始末して、整頓する」ことだ。また「整理」は「乱れた状態にあるものをかたづけて、秩序を整えること。不必要なものを取り除くこと」であり、「整頓」は「散らかり乱れている物を、きちんとかたづけること」とされている(以上、岩波国語辞典)。これらの行為を総称して我々は掃除としているが、こうした行為がきちんと循環すれば掃除はいたって楽になる。しかしこれがなかなかうまくいかず、6割以上の人が「片づけは苦手」としている(図表1)。しかもこまめに行えばより簡単なのに、「普段からまめにするようにしている」とする人はわずか3割で、7割が「回数は少ないがまとめてやる」としている(データ省略、出典は図表1に同じ)。

家庭のしつけとして、親が子に部屋をきれいにするように言う割合についての国際比較調査をみると、なぜか日本では父母ともに割合が最も低い(図表2)。しかし、子育ての気付きとして最も高い割合を占めているのは意外にも「整理整頓・片づけ」だ(図表3)。どうやら、親自身も苦手なため、整理整頓に関してはうまく教育もできていないようだ。

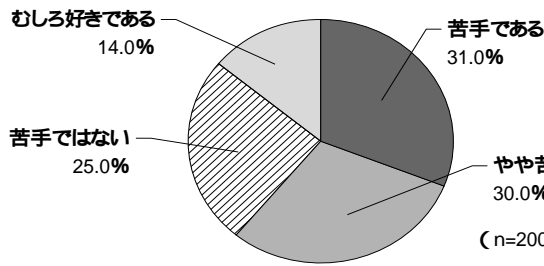
< 掃除嫌いの悪循環 >

掃除を面倒にする大きな原因はモノである。モノが多いと掃除がしにくい。不用品を定期的に捨てていかないとモノは溜まる一方だ。「整理しない=捨てない」「モノが増える」「置き場所が不足」「整頓できない」「ごみやほこりをとりにくい」「掃除が面倒」「整理できない」「さらにモノが増加」...という恐怖の悪循環にはまる。片づけのためにモノが捨てられるかどうかについては、半数が「捨てられない」としている(図表4)。その理由の6割は「いつか使えると思うから」だという。

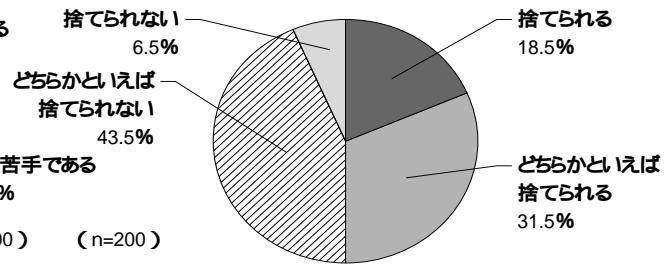
昨今、捨てられない心理が話題にのぼることも多く、関連本がベストセラーになったり、散らかり放題の部屋に住む人がテレビで特集されたりしている。「モノを大切にする」ということは、日本人にとって美德だったが、何でもっておいてほこりをかぶせておくことがモノを大切にすることではない。

「(金を)貯める技術」も重要だが、「(ゴミを)溜めない技術」も習得したいものである。

図表1 「片づけ」の苦手意識

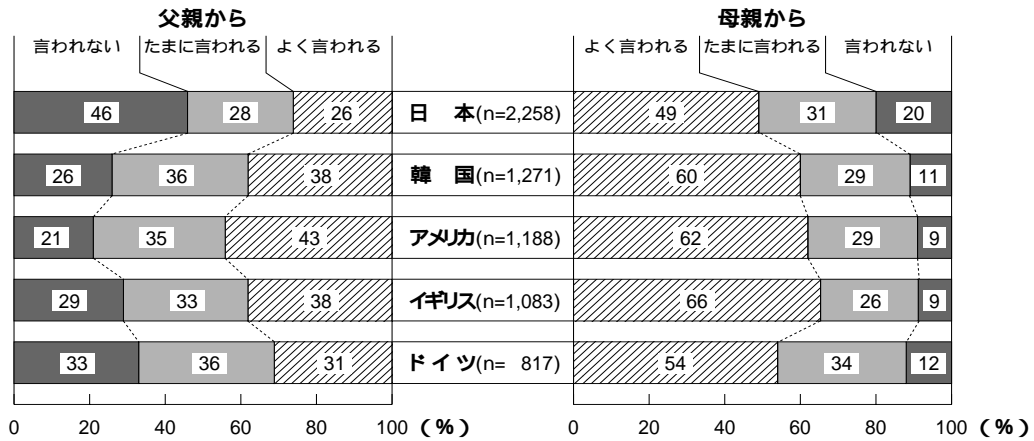


図表4 片づけのためにモノが捨てられるかどうか

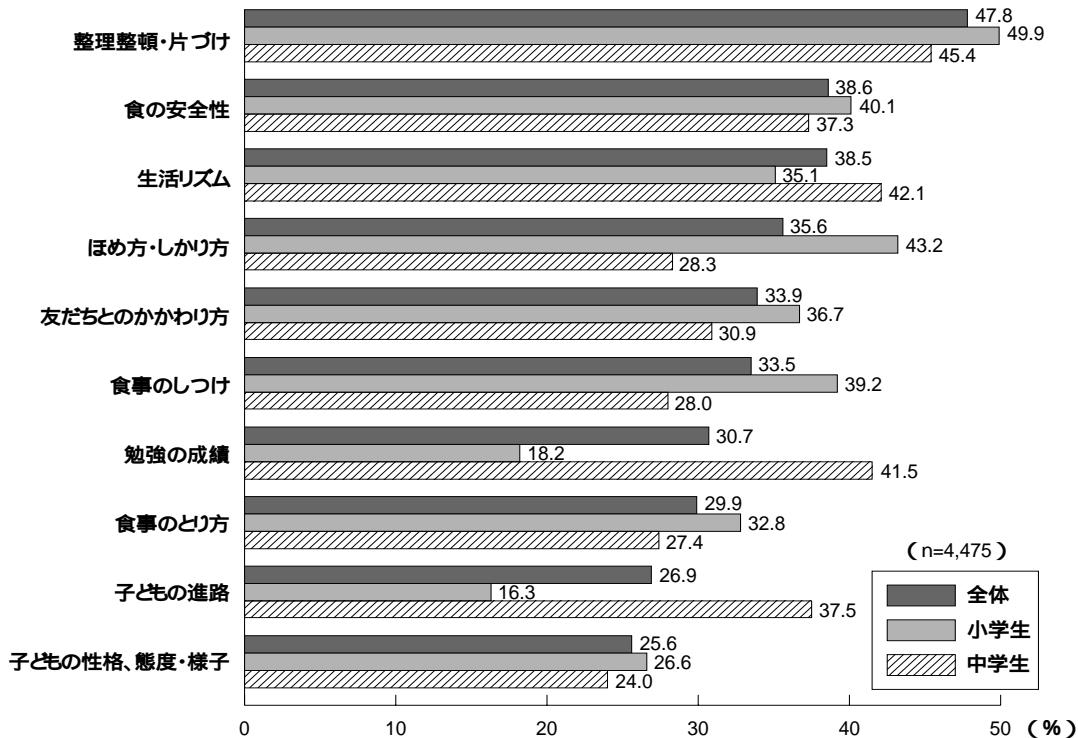


注:調査対象は大阪府に在住する主婦(20~50歳代)200人。調査時期は2000年11月
資料:タイガー魔法瓶株式会社「わがやの収納」『TIGER LIVING REPORT No.52』2001年1月

図表2 「もっと部屋をきれいにしなさい」と言われる割合



図表3 現在の子育ての気がかり(複数回答)



注:調査対象は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の小中学校3、4、5、6年生と中学校1、2、3年生をもつ保護者。
調査時期は1998年12月
資料:ベネッセ教育研究所子育て生活基本調査プロジェクト「子育て生活基本調査報告書」1999年